
タイトロープ

L i t a l y

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

タイトロープ

【著者名】

Littaly

N8550B

【あらすじ】

ロープが、じり、ジンと張られてる。あっちとこっち、あんたと俺、地球の裏側、あらゆるものの中間に、そのロープは張り巡らされている。

一本のロープが、こいつ、ぴんと張つてる。
あっちの端つこからこっちの端つこまで。
どこ?じゃない。

あっちからこっち。

大抵の事は「あっち」と「こっち」で事足りる。
名前とか、意味とか、そんなのは、そういうのが好きな連中が後から勝手に付けてくれる。

俺はそのロープをもちろん渡らなきやいけない。

こっちの端つこからあっちの端つこまで。

なんで?じゃない。

ロープがあるんだから渡らなきやいけない。

ロープが張られてるから渡る。

当たり前の事だ。

猿でも分かる事だ。

俺はそのロープを渡るのをもちろん拒む。

こっちの端つこが俺の場所で、あっちの端つこはそれ以外の場所だからだ。

なんで?じゃない。

俺がここにいるんだから、ここが俺の場所。

ここが俺の場所である以上、俺はロープを渡るわけにはいかない。

当たり前の事だ。

猿でも分かる事だ。

「」で問題が生じるわけだ。

もつ、激しく生じるわけだ。

俺はロープを渡らなきゃいけなくて、でも渡るわけにはいかんわけだ。

そこでおれは萎えるわけだ。

もつ、激しく萎えるわけだ。

萎てる場合じやないけど、でも萎えないわけにはいかんわけだ。

次の瞬間、あつ、て思つて手を前に伸ばす。

手にとどいた気がしたけどやつぱとどいてなくて、

一瞬指の先つちょにかすつた感触があつた気がしたんだけど、

それはそう感じただけで実際には触れてなかつたかも知れなくて、何はともあれ、それと俺の手との距離はいひ、どんどん開いてくわ

けだ。

ばーん、つてね。

落ちる。

当然、落ちる。

あーあ。

落ちちやつた。

殘念。

俺はそれをちょっとの間眺めてから、伸ばした手を引っ込めて、自分の場所に戻る。皮肉のひとつでも言つてやろうかと考えるけど、それはいい考え方じゃない気がしてやつぱりやめ。

もうなんかめんどくなつて、布団を頭からすつぽりかぶつて寝ることにする。

それはロープを伝つてやつてきた。

ナマニの湯川山野川

オマエの場所を捨てて来た。

どんな覚悟があつたとか、どんな決意があつたとか、そんものは大した問題じゃなくて、

俺に会ったために「一つを渡す」とした事実だけがそこにある。それは俺にとって、この手で触れられそうなくらい身近な問題であ

卷之二

実際には全くやめてして俺の外の問題たてたりして
だからやつぱり手はとどかなくて、

だからちょっとだけ泣いてみたりしてね

なんてね、嘘だよーか。

全てのものに愛を込めて。

F U C K

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8550b/>

タイトロープ

2010年12月29日14時16分発行